

出穂は平年比2日程度 早まる見込み！

令和6年6月20日
長岡農業普及指導センター
稲作情報 No. 4

電話 0258-38-2557
E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

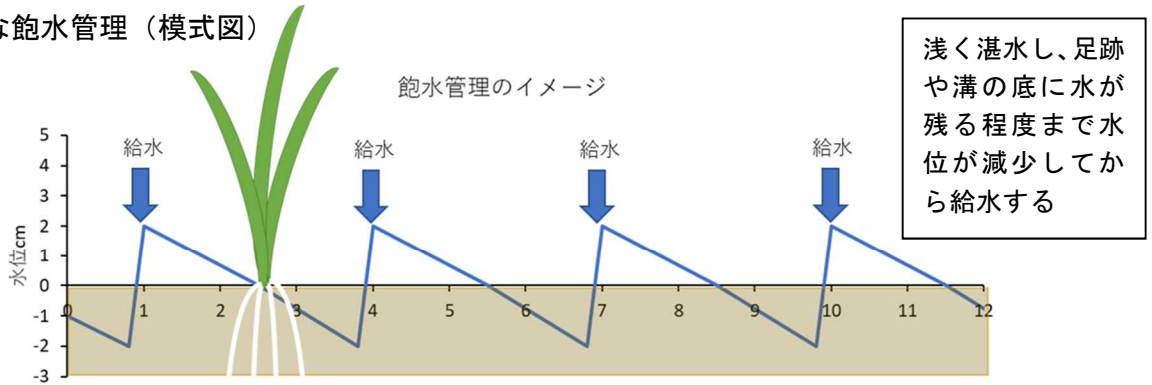
【生育調査ほの生育状況（6月20日現在）】

- 早生品種は生育が旺盛で出穂も早まる見込みです。飽水管理に移行するとともに、確実に幼穂を確認し、適期に穂肥が施用できるよう、表1を参考に早めに準備しましょう。
- コシヒカリも草丈が長く、葉色も指標値と比べ濃く、茎数は過剰となっています。中干しを継続し、過剰生育を防ぎましょう。

1 今後の水管理

- (1) コシヒカリはじめ中晩生品種は過剰生育となっているため、出穂の1か月前まで中干しを継続しましょう。早生品種は出穂の1か月前に達したら中干しを終了しましょう。
- (2) 中干し後は浅水の間断かん水を行い、徐々に飽水管理*に移行しましょう。

※理想的な飽水管理（模式図）



2 出穂期予想と穂肥時期のめやす

- (1) 出穂期は、平年より2日程度早い予想です。
1か月予報（6/20 新潟地方気象台発表）によると、6月22日からの向こう1か月は気温が高い確率が80%と予想されており、更に出穂期が早まる可能性もあるので、穂肥施用が遅れないように注意しましょう。

表1 幼穂形成期及び出穂期の予想と穂肥時期のめやす（長岡・平場地域）6月20日現在

品種名	幼穂形成期	出穂期	穂肥時期のめやす（月/日）（ ）内は出穂前日数	
			1回目	2回目
新潟次郎	6月22日	7月15日	6/20～6/22 (25～23)	7/ 1 (14)
ゆきん子舞	6月28日	7月21日	6/26～6/28 (25～23)	7/ 7 (14)
こしいぶき	6月28日	7月21日	6/28 (23)	7/ 7 (14)
コシヒカリ	7月10日	8月 2日	7/15～7/18 (18～15)	7/23 (10)
ゆきみらい	6月23日	7月16日	6/23 (23)	7/ 3 (13)
わたぼうし	6月27日	7月20日	6/28～6/30 (22～20)	7/ 8～7/ 10 (12～10)
こがねもち	7月 4日	7月27日	7/ 9～7/12 (18～15)	7/17 (10)
五百万石	6月25日	7月18日	6/28 (20)	7/ 6 (12)
たかね錦	6月29日	7月22日	7/ 2～7/ 4 (20～18)	7/ 8～7/12 (14～10)

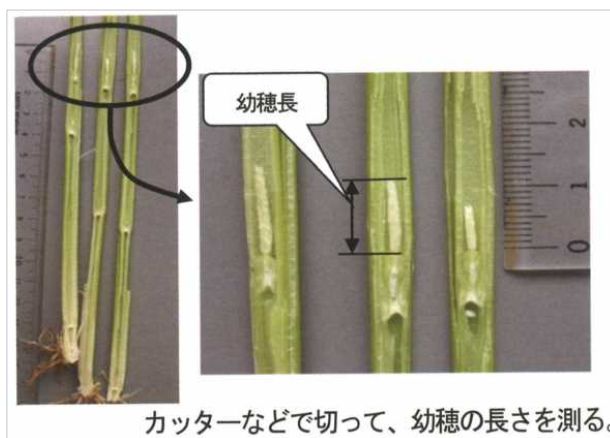
(注) コシヒカリの出穂期予想（経営普及課）を基にした予想値である。
早生品種は5月1～5日稚苗移植を、中生品種は5月10～15日稚苗移植を想定して予想した。

- (2) 幼穂形成期や出穂期はほ場間で差があり、今後の天候によっても前後します。

各ほ場で幼穂確認を行って出穂期を予想し、穂肥の適期を判断しましょう。

ア 幼穂の長さの測り方

- ① 平均的な生育の稲を3株程度選ぶ。
- ② 1株の中で長い方から2～3本の茎を選び、株元から茎を引き抜き、図のように幼穂長を確認する。



イ 幼穂長から出穂前日数を予測する

出穂前日数	幼穂長 (cm)
23日	0.1
20日	0.2
18日	0.5～1.0
12日	4.0～6.0

3 早生品種の穂肥のポイント

(1) 分施（基肥＋穂肥）の場合

幼穂形成期(幼穂長 0.1 cmの時期)を確認し、各品種の適期に施用しましょう。

表2 穂肥施用量のめやす（合計施用量を2回に分けて施用する）

品種名	合計施用量 (N kg/10a)	留意点
ゆきん子舞	6	1回目3～4kg/10a、2回目2～3kg/10a がめやす。
こしいぶき	2	砂壤土など地力の低いほ場では、1 kg/10a程度多めに施用する。
ゆきみらい	5	1回目 3 kg/10a、2回目 2 kg/10aがめやす。
わたぼうし	2～3	極端な過肥にならないように注意する。
こがねもち	1～3	生育過剰の場合は遅めの1回施用とし、1～1.5kg/10a以内にとどめる。
五百万石	1～2	1回目に重点を置く。

- 必ず、たん水してから施用する。大豆あと等では生育に応じて減肥する。
- 特に、ゆきん子舞やゆきみらいでは、1回目の穂肥を幼穂形成期に、遅れることなく施用することが多収のポイントです。

(2) 全量基肥肥料の場合

出穂期の葉色の低下が予想される場合は、追加で穂肥を施用しましょう。

4 病虫害対策

(1) 斑点米カメムシ類

農道・畦畔の雑草は、イネ科雑草が出穂しないよう約3週間間隔で草刈りしましょう。
必要に応じて後期除草剤を使用し、水田内の除草も徹底しましょう。
(水田内の雑草もカメムシの発生源になるため、斑点米の原因となります。)

(2) いもち病

いもち病多発生地やいもち病に弱い品種、多肥栽培のほ場では、特に早期発見に努め病斑を見つけ次第防除しましょう。

暑い時期になります。農作業中の熱中症に注意しましょう。農作業事故に注意しましょう。